



公明党
三上 裕久

危険空き家対策について

質問 危険空き家の中で、市が特にこのまま放置すると衛生上・保安上著しく危険となる恐れのある特定空き家と認定したものは、どの程度あるのかを伺う。

答弁 平成30年3月の時点で91件ありましたが、そのうちの60件が解決済みです。残り31件のうち18件においては、撤去・処分について同意しているものの、残り13件においては、未解決のままとなっています。

質問 特定空き家に認定された場合、固定資産税6分の1(または、3分の1)の特例措置から外される。

そのような特定空き家は、今後増え続けると考えるが見解と対策を伺う。

答弁 定期的なパトロールの実施と指導・助言などを行い安全確保に努め、できる限り早期に解決できよう対応していきます。

エレベーターのない市営住宅の高層階(3階～5階)に住む高齢者対策について

質問 オイルサーバーが設置されていない市営住宅に住む高齢者の方への給油が制限されている現状において、どのような対策を考えているのかを伺う。

答弁 公営住宅の指定管理者に可能であれば、協力していただけるよう連携していきます。

生産性向上特別措置法を受けての対応について

質問 新たな設備導入にかかる固定資産税を最長3年間最大ゼロにできる生産性向上特別措置法が成立した。固定資産税軽減措置の条例改正と導入のための市の計画である導入促進基本計画を策定しなければならぬが、条例改正の時期と計画の考え方を伺う。

答弁 中小企業の積極的な生産性向上を後押しするために、市として計画の策定と導入設備などにかかる固定資産税をゼロとする条例改正を第3回定例会に上程できるように進めていきます。



会派清新
柴田 文男

公立高校配置計画について

質問 北海道教育委員会が明らかにした本市を含む空知北学区の削減案において、滝川高校の1学級削減が示された。驚いた関係者も多々いる。

この度の配置計画について市教育委員会の受け止めについて伺う。



▲滝川高校

答弁 前回の計画案において、今後空知北学区では2～3学級の調整が必要との提示がありました。滝川西高校が1学級減になったばかりの状況から正直驚いています。

定員が維持されている状況下での削減提案は、市民理解が得られないとして、過日、市長とともに北海道教育委員会を訪問し、教育

長へ説明責任を果たすよう申し入れを行ったところです。

質問 この度の計画案では道立女満別高校と町立東藻琴高校との統合による町立新設校の設置が公表された。道内では初めてのことが、本市にも市立高校があり、興味深い動きである。現在の市内3校体制についての市教育委員会の考えについて伺う。

答弁 ご指摘の町立新設校は、それぞれの高校で定員割れが続いていたため、教育環境の向上のため統合したうえで町立高校として存続を図ったものと思われます。

市内3校は道立、市立の違いはあってもそれぞれが特色と魅力ある学校づくりを進めており、多様な進路を選択できる恵まれた環境にあると考えます。

今後も管内の中学卒業生数が減っていく中で、北海道教育委員会の配置計画は再編統合へと向かっていくものと思われますが、単に学校の数の議論に終わることなく、子どもたちにより良い教育環境を維持するために、北海道教育委員会に対して滝川市の考え方を伝えていきたいと思います。